

有宵会だより

第74号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

四月・五月の運勢

気学では辰四月

四月四日(清明)節入り

破

生氣
ア
天道

8	4	6
7	9	2
3	5	1

気学では巳五月

五月五日(芒種)節入り

天道

生氣
ア
破

7	3	5
6	8	1
2	4	9



一 白水星の人の運勢

四月筮一沢天夫の初九
五月筮一雷風恒の上六

四月は相変らずの忙しさで無理をしやすい。人に気遣い自分には厳しく急がれる用事はまとまらない。仕事はトラブル避け慎重に対処。家庭の中に和らぎあり。健康管理は気管、頭痛、怪我用心。五月は見通しが明るく気分がよい。毎日平穩に過ごす幸わせ飲食の楽しさ。情報やメール数多いので取捨選択。予定や約束を守り出費チェック。体調充分でも管理大切に。

二 黒土星の人の運勢

四月筮一雷沢帰妹の九四
五月筮一沢水困の上六

四月は忙中閑あり、前半は几帳面に処理しノルマをこなす。後半は気をぬかず進める。家庭は会話不足、週末は内容充実に過ぐす。対人面は理解され難いが目上の知恵借り。食欲と休養で良好。

三 碧木星の人の運勢

四月筮一風雷益の初九
五月筮一風地觀の九五

五月は何事にも先走らず慎重に。口約束は反古になるので書類を交わす。短所より長所を見つける。仕事は新アイデアを生かす結果へ焦らずに。疲労から体が重く胃腸大切に。四月は意欲的で功を奏する吉。何でも前向きにやってみる。華やかでも内面に影りあり。異性の会話と趣味を楽しむなど快適さ。中旬にカードや書類のミスさける。歯痛、関節、筋力、皮膚手入れ。五月はピンチの後にチャンスあり諦めるのは禁物。後半に好転する。希望叶える努力を忘れずに。金銭面は計画的に処理する。スマホで意外な情報収集。不眠、頭痛血圧、熱など。

四 緑木星の人の運勢

四月筮一天山遯の上九
五月筮一水風井の初六

四月はマイペースで悠々

と過ぐす。気兼ねでストレス溜まる。家族の愛情で円満にいく。初物に縁があり面白い。ネットや画像など仕事に有益です。個人の不満は抑える。視力低下、歯、神経に用心。五月は初心貫徹すれば成果あり。転ばぬ先の杖を持つ。将来のために学ぶこと。家族の口喧嘩は予想以上傷つく。軽い悩み対人面に出る。風邪、背骨と腰痛、腎泌尿用心。

五 黄土星の人の運勢

四月筮一山水蒙の六四
五月筮一風雷益の六四

四月の運氣は伸び悩みが続く。居住空間を生かす部屋と家具を楽しむ。目下や子供に慈愛を表わす。仕事はゼロからスタートして実を付ける。内部蓄積に重きを置く。風邪、筋骨、気の萎縮に用心。五月は横這から昇り調子に向かう。改革は急がず古いものを大事にする。公私に安定感あり忙しさは続く。身内と義理の付き合いが生じる。のどとせき、口腔、胃腸の点検。

六 白金星の人の運勢

四月筮一火風鼎の九三
五月筮一震為雷の九四

四月は知人の話から今

の運をつかむ。弱者に優しい手を差し伸べる。公私にわたり念には念を入れて吉。散歩や運動で心身リフレッシュよし。道具や機械の一部修理、消化、皮膚、持病の再発。五月は好調リズムに乗り気分爽快、難問はクリアするでしょう。一人占めにせず周囲を潤す。グッドアイデアは即実行。公文書や印鑑押印の確認。胃腸、食道、傷口に注目。

七 赤金星の人の運勢

四月筮一地山謙の初六
五月筮一乾为天の九三

四月は謙虚さに値打ちあり、見栄を張らない。過去は水に流して気分一新の喜び。目標達成に向けひと踏ん張り、仕事は長期戦で臨む。金銭は収入があっても支出多し。花粉症、肝胆と皮膚など。五月の運氣は伸展の期待が高まる。春風に誘われて野山満喫、渡る世間に鬼はなし。終りよければすべて良く仕上げが重い。人の話にムダがない。体調平穩、感染症に対処。

八 白土星の人の運勢

四月筮一艮為山の上九

五月は備えあれば憂いなし、何事も腰を据えて取り組めば成就。交渉や依頼事は低姿勢で相手は軟化する。快く他人に任せて吉。家庭内の用事多数、交際も多岐にわたる。消化、関節筋、痙攣あり。五月は平凡さと安心感があるとき。私事の厚誼を大事に。家事は予定ならず延びやすい。諸事に中旬吉。過去の古傷に痛みあり蒸し返しをしない。内臓疲れ、気管口腔など。

九 紫火星の人の運勢

四月筮一坎為水の六三
五月筮一火地晋の上九

四月の運氣は自重するものが無難です。雑多な用事が多いので気疲れが続く。技術や能力は付け焼き刃は通じない。人情や思いやりをいただき家族共に喜ぶ残り物に福あり。五月は活発ムードがあり強気は控え目に。言動の軽率さは損をする。二度ある事は三度あり用心。流れに逆らわず自然体が良い。頼まれ事はノーと言える勇気必要。体調は食事と睡眠など生活管理。

福田 有宵

一月有宵会報告

山本 悠里帆

平成二十八年一月三十日(土) 足立区勤労福祉会館ブルミエにおいて、新年一月の有宵会例会が開催されました。

司会は佐藤宗眩先生です。

まず、福田先生と菅原有恒先生から新年の挨拶をいただきました。



「福田先生」

おめでとーございます。一年が過ぎ、今年もまたお会いできた、それが一つの幸いです。

また有宵会の中だけにとどまらず、次々と教室を生み出していつてもらいたい。そしてそれぞれの人が一門を率いてそれぞれの道を歩んで頂きたい。これが昔からの私の願いです。佐藤先生などなど各人教室を開いて門人を率いておられる。うれし

「菅原有恒先生」



今年是有宵会の二十周年ということ、大変おめでたいことです。皆さんは二十年前には、どんなお顔で勉強なさっていたのでしょうか。当時を思い出してみてもまた良いことと思います。

昨年、福田先生から今年の年筈を頂きまして、風雷益の九五でした。大変素晴らしい卦です。

また自分ではいつも冬至の日に中筈でたてていまして、これが風火家人九三の風雷益に之く、でした。偶然というか運命なのか、何か福田先生と通ずるものがあるのかなと、易の不思議さを今年は特に感じました。三位前にも同じようなことがあり、福田先生と年も近いし、見通しが似てきたのかなと思います。皆さんもご存じのとおり、私は周易の六十四卦を楷書で書いております。前に葉書大のものを作りまして、少し皆さんにお

分けしましたが。

今、半切(はんせつ)という大きさの和紙に書いております。一番大変なのが、一卦の文字数が一六〇字から三〇〇字なにかきこんで行くことです。

今年一番初めに書いたものが、これもたまたま偶然なのですが、地雷復でした。これは一陽来復といってお正月には欠かせない言葉ですね。皆さんも一歩一歩進んでいくという、新年にふさわしい卦だと思います。

これは私事ですが、今年の三月二日から三月八日まで、の美術館で書道展を開きます。この・・自分は、の会ですから、はなりません。四つ作りまして、それに合う卦を四つ選びました。乾・坤・泰・家人です。家人は私の号の有恒がでている卦です。それを書きました。また後でご案内をしたいと思います。

思います。これをみてぜひ筆相を勉強していただきたいなと思っております。これから一年、また楽しくやりましょう。よろしく。

第二部

福田有宵先生

*今年一年を気学と易断により考察する

今年は十干十二支の中の「丙申」です。干支は六十年でひと回りします。六十年周期説というものがあります。前回は昭和三十一年でした。

この年には、原子力委員会が発足。この頃原子力の問題が出ています。日ソ交渉・強硬なソヴィエトとの漁業問題。今年、安倍首相とプーチン大統領との会談が予定されています。フリーピンとの外相外交問題、先の戦争では五十万人もの人が犠牲に。賠償協定。今年、天皇陛下が訪問される予定だそうです。日本本土では三陸沖に大津波が押し寄せ、家屋六千戸が喪失し、二万七千人が亡くなりました。またこの頃は社会党が優勢でした。六部会もありました。

また戦後から十一年、昭和二十五年から始まった朝鮮戦争によるいわゆる神武景気で、鉄のブーム・くず鉄を集めては売るといふ時代となり、日本は敗戦から一気に立ち上がって行きました。造船が世界第一位になったもの頃です。

暦は、大抵どのものも、十干十二支の流れから話を始めていきます。今年の干支はこうだからこういう傾向になる、というものです。

ここでは、少し違う観点から見ていきましょう。六十年の間に五回申年があります。それぞれ違う意味合いを持っています。申は万物を盛んにするといふ意味で、陽気盛んである。申は人偏を付けると新しい力を伸ばしていくといふ意味合いを持つ、とも考えてみる。

壬申は親猿とおおらが十干十二支が体のどこに当たるのかということ、を、少し申し上げたいと思います。

昔の人は、生まれの干支でここに特徴あり、と考えたのです。

十二支の配置図に人体の絵を頭を下にして置いてみるとこうなります。おおざっぱですが、なるほど言いつて妙なところがありますね。前に家相の話の時にもこの図を出しましたが、江戸時代には盛んに研究がされ、我々がこの家に住

んで、何時どんな病気を発症するだろうか？ということを推測するような時に、この家相と十二支の人体配置図をみて判断に利用したよつです。

家と健康には、強い関連があります。人生の大部分の時間を過ごし、心と体を休めるところが家で、体にさまざまな影響が出てきます。

子丑寅卯、このあたりが我々生命体として重要なところですね。

さて、十干十二支において、革命が起きる年・禍の起きる年といわれていることがあります。歴史の上その年をたどっていくと、そういうことが起こっているということがあります。今まで言い伝えられて来たことを次に述べましょう。

三革説というものが言われ（三種類の革命ですね）昔は天の禍が生じるとされて、改元や遷都をしてまでその災いを避けようとしてきました。

* 甲子（カツシ）革命
聖徳太子の一七条制定・神武天皇の紀元説など

* 戊辰（ボシン）革命
神武天皇の紀元説など

* 辛酉（シンユウ）革命

為政者がわざわざその時を選んで行った、という面もあり、歴史を深く読んでいくと面白いものがあります。

十年、十二年、六十年と、様々なサイクル説があります。自分は何年かを考えてみるのも面白いと思います。一人ひとり違うけれど、平均というものも知らなければいけません。気学の九星と干支の組み合わせ

せは三進法です。我々の生命活動・日常生活においては、この三進法が一番合っているような気がします。石の上にも三年・三日坊主など、経験の上になり立っているものが多いのです。

相 気学における今年の世相

* 二黒中宮・坤宮に八白暗剣殺＝国民が社会の中心にいない

が二黒の定位に暗剣殺があり、そうはいかないところあり。景気そのものは低調。中小企業の倒産・破産は来年以降。山崩れの心配。

社会全般としては、高望みしない・平穩に過ごしていきたい・お上に従う・

妥協してしまふ・流れてしまふ所あり。

* 震宮に九紫が座して、製薬業・病院など、新たな開発・進展がみられる。

地方の行政機関は、新しいルール作りや積極策を出し、努力をする。震宮は「守りに入るな」というところ、後悔しないために実行すること。火山が頻発する。

* 巽宮に一白が座して、難民は受け入れれない。外交は様子を見る。沈滞している。観光は、今年は受け入れる方にまわる。

暗剣殺・破れが付いてないので、昨年ほどの災害はない。

* 乾宮に三碧が座して、太陽風による電気・通信の問題が出る心配。

* 兌宮に四緑が座して、飲食・娯楽関係は伸びる。平地での風（竜巻・突風）の害に注意。

* 艮宮に五黄が座して、歳破が付く。八白の暗剣殺も考慮に入れると、改革はしたいがまだ出来ない。その地域の問題・身内・親族・生活上のこと・人間の縁・結びつき等に出てくる。現場での事故の確率が高くなる。食

品加工の問題が出てくる。* 離宮に六白が座して、国家は大企業を優先、温存させる。国は国民に楽をさせない。

* 坎宮に七赤が座し、機密情報の漏洩保護に甘さがある。娯楽産業は低調

一白水星
昨年出来なかつたことを、今年はおまてとめる時この一年でまとめようにしていく。

二黒土星
持病の再発、血行・血圧に注意。八白暗剣殺の被同会で身内からの問題に注意。コミュニケーションを図り、予防。

三碧木星
意欲的になり、去年出来なかつたことを今年はしたいと言う。先走らず、頭を下げることで、運が開ける。

四緑木星
飲食やレジャーで楽しい付き合いを。金銭の出入りには気を付けること。風邪など感染症に注意。

五黄土星
変化をしたいが、邪魔が入り、出来ない。高血圧・胃腸に注意。

六白金星
三年近く努力した結果

を表に出すようにする。実績を上げるようにする。自分の姿を見ることが必要。

七赤金星
自分のペースを生かすことができる。気楽にやってみること。坎宮で生活が不規則になりやすい。風邪・のどに注意。咳がひどくなりやすい。

八白土星
暗剣殺・定位対沖・五黄被同会。邪魔が入る。周りが自分のやり方を気に入らない。対人面を生かすように行動すると良い。二黒同会なので何事も平らに手堅く、無理をしない。コツコツやる。土地・実家の問題。今年

は良くなる為の修行の時と考える。何でも受け入れてみるのが開運につながる。起こると皮膚が硬直する。

九紫火星
ここ数年は運気がまだら模様。今年はい欲的に行く。若返るように、今までのストレスを治していく。見通しは明るい。付き合いは義理が多い。金銭問題に注意。

山本悠里帆



年筮の記録

乾象

平成二十一年度から、年筆を手渡している女性実業家があります。昨年（二十七年）は人の問題で大変苦労されたと言っている。逆のぼつて、お送りしている「年筮」とその時々々の事業内容を教えて頂いたの、記録し、ここに披露したいと思います。

平成二十四年からの筮を特筆いたしますが、水天需の初九が「年筮」でした。その女性実業家は、本命七赤月命五黄の方で、午未空亡で、「巳年」から空亡の始まる方です。十四年は六白中宮で、七赤の方には乾宮に暗剣と歳破の付く厳しい年です。ご本人は気が付いていたかどうか、「年筮」の説明として、「今年はおまり動かず待つことが大切ですね」と申し上げたように記憶しています。

「ご本人も“寝て待てと言われていたので自分ではのんびりとしているつもりでした”と、でも、この年の夏過ぎ十八年も可愛がっていた猫が死んで大変落ち込んでいたと記憶しています。

しかし、二十四年の終わり頃に二店舗目のお話があり、チャンスとみてその翌年からの開業にむけて契約をしたと、後で話を聞きました。(何を申し上げても、決行する方と考え注意しながら見守る事をここに決める。)

平成二十五年の「年筮」は、水火既済の九三でした。良い卦が出ているので着実に無理をせず、後半に厳しい卦なので前半の勢いに吞まれず、お金には厳しく管理することを大切に！そして、七赤は兌宮回座なので、お金の出入りと、口の災いにはくれぐれも注意をする事、と申し上げたのは「己年」で空亡の初年度だったからでした。二十五年一月(まだ二十四年度)に新店舗をスタッフ達の居抜きで買い取り営業を開始しました。多忙な新店舗の営業は続き、当初全員が残って働いて

くれましたが、一人、また一人と辞める事態が起こり、スタッフの中には妊娠をしたため産休に入る人もあり、スタッフの問題がありながらも、お店は順調に推移して、新店舗に関する借財の返済にもめどが付きお金を厳しく管理してきたことが役にたちましたと云っていました。

平成二十六年の「年筮」は、風山漸の九三でした。知つての通り、「三大吉卦」のひとつです、大変に良い卦です。しかし、急に進んではいけない卦でもあります。じっくりとお店の内部を固める努力を続ける年ですね！七赤は艮宮回座の年、変化新旧交代の年です。一年を過ぎた本人いわく、“もとの店舗も、新しい店舗も人(スタッフ)の変化を経験した年でした、二店舗になった為に人数も増え、イライラすることも多かったです。一番大変だったことは長年勤めてくれていた経験者の人が、旧店舗の責任につぶれてしまった辞める事になってしまった事でした。お客様からのクレームも多い年だった

ように思います。二店舗になった事でこころ配りが増え、自分だけが忙しく動き廻っていたけれども、私のスピードに就いて来れず、振り返ったらスタッフが一、二人辞めていた。

平成二十七年の「年筮」は、水雷屯の六三でした。昨年の吉卦から、一気に厳しい「四難卦」になる。悪い予感を感じている本人に、困難卦でも将来に明かりの見える卦である事、状況をよく見て冷静に対処するととて乗りきれぬ卦です。将来、実業家として大成するために乗り越えるための「お勉強」をする時かもね！之卦が水火既済になつて居る事からも、頑張れるよ！と付け加えました。空亡の最終年度で苦しい年となる事を予想はしておりましたが、

「四難卦」が出てしまひ年筮を手渡した時にはひやひやものでした。その一年を振り返り、ご本人から、“さんざん一年でした、先ずスタッフが多様な理由で辞めて行ったこと。問題のあるスタッフも居たので、一面すつきりもしましたが新しい人材に仕事を始めから教えていくことに時間がかかり、また自らがお客様と実際に対応する機会(時間)が増え大変な一年となりました。”

「自分がフルに動かないとサービスの低下を招きかねないので、経験者の一時的な助けも借りながらなんとか二店舗を運営してきました。売上額はだいぶ落ち込んでしまいましたが、お客様にひとりひとり丁寧に接することの大切さを学びました。」

「お店が多忙の時は、回転する事、お金を稼ぐことを最優先にしていた自分が居た事、スタッフの辞めていった理由も、あまりに能率を優先して来た事かも知れないと気付くようになりました。」

「お休みをする時間が極端に減り、体調を崩した

りしたこともあり、「年筮」通りの厳しい一年でした、来年は良い卦を下さい(笑)！」

平成二十八年の「年筮」は、火天大有の上九でした。本人の希望通りの素晴らしい卦となりました、之卦も雷天大壮となり、昨年の卦とは異なり運勢に関する限り盛運の卦です。今まで積み上げてきたお店の信用や技を守つてゆく事。大有は一陰五陽卦で女性にとっては驕りやすいところに注意する事。

金銭帳簿には引き続き注意を忘れず、人材には苦労が残るとは思いますが、一昨年、昨年の人事面での苦労を活かすことで乗り切れる卦です。(ご本人は、今年に空亡が明けますが、七赤本命が攻宮に居る事を自覚しているようです。)

北窓開く
アルミサッシのなかった頃は、襖や障子、壁と柱の間からも隙間風が吹き込みました。雪国では、すきま風に雪が混じる事もあったといえます。

その為、地方によつては紙や布で隙間に目張りをして、厳しさををしのぎました。暖かくなつて目張りをはがすときは、春を実感したものです。

冷たい北風が吹きつける北の窓も、冬の間は締めきっていました。閉ざっていた北の窓を開いて春風を入れ、北窓からの風景を久しぶりに見る時も、春を迎えたいうれしさごみ上げてきます。

住宅事情は大きく変わりましたが、暮らしの中から生まれた知恵や、春の訪れを喜ぶ心は大切にしたいものです。



落ち椿

あまたの春咲く花の中で、花といえは『桜』そして、木偏に春の名を持つ『椿』も春を象徴する美しい花です。『古事記』や『日本書紀』にも登場し、花は観賞用、硬い材は木製品、種からは油を採り、木灰は紫染に利用されるほど、人との関わりの深い花です。

落花する時は花びらを散らすのではなく、花全体がポトリと落ちます。鮮やかな印象を残す『落ち椿』もまた春の季語で、万葉の時代から詠まれていきます。

落花の様子から首が落ちる事を連想され、武家からは嫌われたという説もありますが、二代將軍徳川秀忠をはじめ、多くの武家が椿を愛好しました。贈り物やお見舞いに持参してはならないとする現代の方が、こだわりの強いよつです。

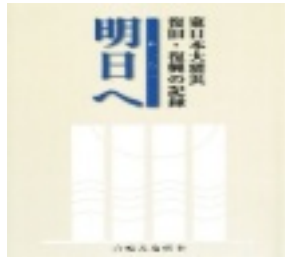
美しい日本の季語より



NPO通信

塩竈市役所 佐藤昭市長さんから『塩竈市東日本大震災復旧・復興の記録 明日へ』の御本を頂戴いたしました。

これまでの復興・復旧を記録し後世に語り継ぎたいとの目的の御本です。大変感動する本ですのでご覧ください。



無料鑑定会参加

三月五日(土)江東区文化センターに於いて、『春の文化まつり』占いコーナーに一般社団法人日本占術協会様と協賛で無料鑑定会を行ってまいりました。当日は天候がやや思わ

しくなかつたのですが、沢山のお客様において頂き大賑わいの鑑定会でした。



当日の鑑定士の先生は日本占術協会様からお二人の先生と有宵会からは以下の先生方のご協力を頂きました。

半田晴詠・久保田恵都予・白土愛眞・山田倫子・綿引涼子・金子美代子・佐藤宗眩・福田理事長
三月二十六日(土)松戸市民活動サポートセンター主催による『みらいフェスタ』に参加致しました。松戸駅西口での鑑定でしたので、行列ができて一日中切れることがない忙しさでした。

ご協力頂いた先生方は白土愛眞・山田倫子・金子美代子・岩崎紀子・若林シマ・長澤光佑・金子智佳子・河崎さち子。佐藤宗眩・福田理事長



賛助会費として左記の方々からご寄付を頂戴しました。(敬称略・順不同)

野路さくら・久保田恵都予・伊東直子・高田玲照・牧野有峰・福田有宵・佐藤宗眩
『読売中高生新聞』に占いの紙面ができ、四月より有宵会として隔週掲載されることになりました。

半田晴詠・久保田恵都予両先生に執筆をお願いする事になりました。



事務局だより

次回の例会

日時 五月二十日(月)

午後一時十五分より

(終了後懇親会予定)

会場の都合の為月曜日の開催です。ご注意ください。

場所 足立区勤労福祉会館『ブルミエ』にて

講義 福田有宵先生

『開運の方法論』

本年一月の有宵会には六十一名の方々が参加されました。

初詣の報告

二月十六日(火)靖国神社正式参拝

当社は明治二年六月に東京招魂社として建立され、同十二年に現社名に改称されました。当日は昇殿参拝・神楽舞拝観後、遊就館で多くの遺品を拝見しました。

有宵会設立二十周年の祝賀行事

来る四月十日(日)日比谷松本楼にて開催する事になりました。沢山の方々にご参加のお申し込みを頂き感謝申し上げます。伊藤 璃香

編集後記

二十周年を迎えました。これからも有宵会だよりを続けていきたいと思っておりますので、皆様方からのご投稿を心よりお待ちしております。

編集長 佐藤宗眩

